

# 博物館だより



No.182

令和4年1月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

博物館休館日カレンダー  
2022年1月

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5

休館日 ※情報はR3.12.17現在

## ◆博物館NEWS 「みやこの猫ものがたり展」 大盛況のうちに閉幕

当館では、昨年末「みやこの猫ものがたり展」を開催しました。「猫」を対象とした企画展は全国的にも珍しいということから、県外の来館者も数多く訪れ、中にはこの企画展観覧のため大阪から足を運んでいただいた方もみられました。最終的に企画展の観覧者数は、当初の目標を大きく上回る約1200人に達するなど、多くの方々にご来館され、大盛況のうちに閉幕することができました。また来館者から「猫のかわいらしさと歴史のすばらしさを同時に感じる事ができてうれしかったです」等、多くの感想をいただき、「猫の歴史」から「みやこ町」を発信する機会となりました。今回の結果を、今後に繋げてゆきたいと思えます。



▶当初の目標「500人目の来館者、茅田イセ子・佳子さん（みやこ町犀川喜多良）」



▲郷土の先輩「小宮豊隆」によって残された「猫遺産」について学習する犀川小学校の児童



▲当館学芸員（左）及び（一社）みやこ観光まちづくり協会（右）によるギャラリートークの状況。当日は遠方から多くの人々にご来館いただきました。

## ◆講座・教室・催し物ガイド 1月の歴史講座

【古文書講座】

1月8日（土） 10時～

【漢詩紀行講座】

1月8日（土） 13時30分～

【古典かな講座】

1月22日（土） 9時30分～

【みやこ学講座】

1月29日（土） 10時～

※見学会等は別途ご案内します。  
※日程等変更となる場合があります。

## 開催中止等決定イベントについて

博物館や文化係が所管・支援する文化事業のうち、以下の事業について中止（または縮小・変更）が決定しましたのでお知らせいたします。詳細は博物館までお問合せ下さい。

①みやこ町文化財防火点検式

1月26日（水）開催予定を中止

②みやこ町三重塔まつり

2月27日（日）開催予定を中止

## 11月の業務日誌から

11月5日（金）、指定分を除く「小笠原文庫」資料の移管作業が始まりました。同資料は育徳館高校図書館内の資料収蔵室に配置されていましたが、図書館の改修工事に伴い、博物館へ移管されることとなりました。

11月21日（日）、伊原ダム湖畔で「歴史たんけんウォーク」が行われました。博物館友の会との共同企画で久々のイベントとなり、豊み隊！も加わって19人が参加。晩秋のダム湖畔で抜群の展望を楽しみました。

11月26日（金）、博物館研修室で皆見大塚古墳のVR体験デモが行われました。このVRは九州歴史資料館（小郡市）が制作したもので、来年のご当地披露を目指してのデモとなりました。画像が超リアルでしたよ!!

11月30日（火）、館蔵の小宮豊隆資料のうち、刊本『三郎』の修理に向けた内覧が行われました。この本は著者・夏目漱石がモデルの小宮に贈った献呈本ですが、虫食い被害がひどく修理することとなりました。



▲戴持山・英彦山など素晴らしい展望が連続のウォークでした



▲修理方針を見極めるため専門業者に現況を確認頂きました



▲小笠原文庫は未指定資料でも注目の品が多く慎重を要します



▲VRで見る皆見大塚古墳の壁画はなかなか幻想的でした



みやこの歴史発見伝 143

みやこの猫ものがたり ①

「猫」の足跡から探るみやこの歴史  
— その1 —

みやこ町の「猫遺産」

「猫」が登場する国内最古の記録は、平安時代にまとめられた日本最古の説話集「日本霊異記」にみられる「宮子郡」（京都郡）の役人にまつわる物語で、みやこ町は、その舞台となった、ゆかりの町の一つです。

また日本文学史上、猫を主人公にした最も有名な作品に夏目漱石の代表作「吾輩は猫である」があります。この作品に関連した漱石直筆の「猫のイラスト」や、作品の主人公であった「猫」が亡くなった際、漱石の門下生で、彼の小説「三四郎」のモデルとなった、みやこ町出身のドイツ文学者「小宮豊隆」に宛てた「猫の死亡通知」などの貴重な資料が当館に収蔵されています。

「猫の日本史」を語る上では欠かせないので、これらの貴重な「猫遺産」が、みやこ町にあることを町内外の人々に広く知っていただくことを目的として昨年末、博物館で「みやこの猫ものがたり展」を開催しました。「猫」という視点から改めてみやこ町の歴史を見つめなおす



猫の置物(トルコ:個人蔵)

機会となった企画展の内容を踏まえ、その詳細についてご紹介いたします。

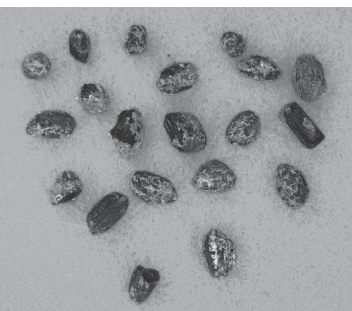
最古のペット「犬」と「猫」

「猫」は食肉目ネコ科ネコ属に分類されます。「猫」と人間との関わりの歴史は古く、東地中海のキプロス島の遺跡では約9500年前には人間と共存していたことが確認されています。他の動物に比べ、常に寝ているイメージの猫ですが、トラやライオンが同じネコ科に属しているように、優秀なハンターという一面も併せ持ちます。「犬」は「世界最古のペット」といわれ、狩猟に欠かすことのできない動物として人間のパートナーの歴史も1万年以上前までさかのぼることができます。犬に次いで、猫も人間との共存の歴史が古い動物に位置付けられますが、そのきっかけは、天敵であるネズミの存在でした。

「猫の歴史」について

古くから日本を含む世界の国々では、米や麦などの穀物がその国の経済を支える重要な食糧に位置付けられてきました。これは栄養価が高く長期貯蔵に優れている特性がその理由ですが、税として一時的に集められた穀物は、ネズミの恰好の標的となり、その被害も甚大な規模になったと伝えられています。

みやこ町勝山黒田に隣接する行橋市の下稗田遺跡では、地下に設けられた約2000年前の穀物貯蔵庫跡から2種類のネズミの歯や頭骨が出土しています。また、みやこ町国作にある八反田遺跡では、高床式の穀物貯蔵庫に設置された「ネズミ返し」が出土するなど、みやこ町やその周辺でも、本格的な稲作開始直後から、人間とネズミとの攻防の歴史が展開されていたことが確認できます。このような動向は世界各地でみられ、重要な「財産」である穀物をネズミから



約2000年前の遺跡(みやこ町勝山黒田)から出土した炭化したお米

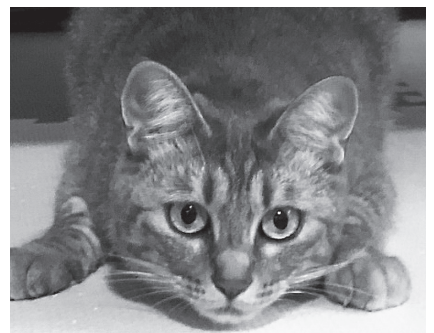
守る対策として、人々はその天敵である「猫」に注目しました。その結果、「猫」は人々の期待を遥かに超える活躍をみせ、これ以降、人間にとってかけがえのないパートナーとしての地位を築くことになりました。

日本では、奈良時代以降、役所の重要な記録媒体であった文書や仏教の経典等を齧るネズミに対し、猫はその能力を発揮します。またこの頃には「ペット」として珍らしい猫が中国などから輸入された事例も確認できます。

「猫」は、日本や中国で古くから「稲穂の精霊」とされ、漢字の表記も獸偏(豸)に「苗」という字が充てられています。これはネズミから貯蔵米(財産)を守る猫を「守護神」になぞらえたという見解もあり、同じように中世ヨーロッパでも「麦穂の精霊」とされるなど、人々の猫に対する畏敬の念を窺うこともできます。さらにネズミはペストなどの伝染病や病原菌を媒介するため、猫は伝染病の蔓延防止の上でも大きな活躍をしており、これらの「重要な使命」を帯びて人と共存してきた歴史をみることで、犬とは異なる方法で人間のパートナーとしての地位を築いた猫の歴史もまた興味深いものです。

猫は「虎」?

「猫」に比べ人間のパートナー



獲物を狙う姿はまさに「如虎」?

としての歴史が古い「犬」ですが、2017年には、「猫」がその数を上回る歴史的な逆転現象がみられ、現在もその数を増やしています。これに拍車をかけたのが新型コロナウイルス感染症です。未知のウイルスに対する各種制限や「巣ごもり」生活等によるストレスの中で人々が求めた「癒し」が「猫」で、各種動画等も人気となっています。

「ネコ」の呼称は、寝ている様子を表した「寝子」や、その姿が「虎」に似ていることから「如虎」(虎の如し)が転訛したものと諸説みられます。

今年の干支は、「ネコ科」の「寅(虎)」です。「吾輩は猫である」関連資料等、みやこ町が誇る各種の「猫遺産」が多くの人々をこの町に招く「招き猫遺産」として、広く活用できる方法を模索してゆきたいものです。

(井上信隆)